

市区町村名	高知県室戸市	担当部署	観光ジオパーク推進課
		電話番号	( 0887 ) 22 - 5161

## 1 取組事例名

廃校になった中学校を有効活用！

～室戸世界ジオパークセンターを発着拠点とした交流人口の拡大と地域経済の発展及び地域住民の活動促進～

## 2 取組期間

平成27年度～（継続中）

## 3 取組概要

室戸市は、ユネスコ世界ジオパークに認定された室戸ジオパークの地質遺産等の保護と活用を推進するため、行政、研究機関、各種団体、民間企業及び地域住民が協力して、地域社会の持続可能な発展を目指し、ジオパーク活動に取り組んでいる。

そのような状況の中で、室戸世界ジオパークセンターは、児童数減少に伴い、平成23年3月に廃校となった中学校の校舎を改築、再利用し、平成27年4月29日に室戸世界ジオパーク（現：室戸ユネスコ世界ジオパーク）の拠点施設としてオープンした。この施設を発着拠点として、室戸市の周遊を促し、交流人口の拡大と地域経済の発展及び地域住民の活動促進を図る。

## 4 背景・目的

### 背景

平成23年3月に廃校となった旧室戸東中学校の活用を検討するため、「旧室戸東中学校有効利用検討委員会」を設置、検討する中で、

- ・室戸ジオパークの重要サイトが周辺に集積し、国道や県道を利用してアクセスしやすいこと
- ・旧室戸東中学校の校区であった3地区とのつながりを活かし、地域のコミュニティと一体となった取り組みが期待できること

・JAMSTEC（独立行政法人海洋研究開発機構）のDONET（地震・津波観測監視システム）を校舎内に整備中であり、将来、得られた情報を利用した防災学習を行うことができることなどの提案があり、旧室戸東中学校を室戸ジオパークの拠点施設として活用することが決定した。

### 目的

室戸市では、「持続可能な発展」の理念のもと、室戸ジオパークの貴重な地質遺産の保護や保全をはじめ、防災、小中高等学校、大学・研究機関との連携・支援などの教育研究活動、ツーリズムの推進、観光及び地域振興に力を入れ、ジオパーク活動に取り組んでいる。過疎が深刻化する室戸市の現状において、観光振興による交流人口の拡大は特に大きな課題であり、室戸世界ジオパークセンターは、その一翼を担うジオパーク活動の重要な拠点として整備が進められてきた。

当施設は、遊園地や博物館のような、施設完結型ではなく、大地の公園であるジオパークをはじめ、室戸市の観光周遊拠点としての役割を果たしながら、本市の地域資源であるジオパークを活用した交流人口の拡大と地域経済の発展及び地域住民の活動促進を図ることを目的としている。

## 5 取組の具体的内容

これまで市内各地に点在していた観光案内所、室戸ジオパークビジターセンター、ガイド受付などの機能や、室戸市観光ジオパーク推進課、室戸ジオパーク推進協議会、室戸市観光協会、室戸市観光ガイドの会など各団体の事務所を室戸世界ジオパークセンターに集約し、観光客の利便性を図るとともに、様々なイベント、ワークショップ等を共同で行ってきた。

具体的な活用方法としては、

- ・集約した機能の一部である観光情報等の案内や情報発信
- ・市内の宿泊施設、飲食店、体験施設などの案内
- ・ガイドの受付手配
- ・新しい体験プログラムの開発
- ・写真展や深海展などの特別企画展の開催
- ・フィギュアへの色付け体験、ジオラマ教室の開催
- ・夏休み自由研究教室の開催
- ・小学生を対象にしたお仕事体験イベントの開催
- ・室戸高校の職場体験の受入、インターンの受入、教育旅行モニターツアーの受入
- ・市民講座
- ・地元食材を利用したバーガーや100%生絞りジュースの提供
- ・地場製品の販売

など、観光拠点としての機能はもちろんのこと、市民の交流の場や学びの場としての施設の提供等も数多く行っている。

室戸世界ジオパークセンターの様子



開発し提供したプログラムの一例  
自然体験（磯遊び・生き物観察）



深海展の様子



ジオラマ教室の様子



高知大学インターンの受入・小学生を対象としたお仕事体験イベント





地元食材を使った飲食



地場産品の販売



その他イベント



## 6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

室戸世界ジオパークセンターは、室戸の変動する大地の成り立ちや風土に合わせた独特な文化や歴史、産業などをプロジェクトマップやパネルを使って紹介している。また、グッズ販売や各種ツアーの案内、地場製品の販売など、観光拠点としての役割や、施設完結型ではなく、市内各地に広がる見所の紹介など、室戸ユネスコ世界ジオパークを楽しむ方法を提供し、室戸市内全体を周遊していただくための発着拠点としての役割も担っている。

なお、「5」でも記載したとおり、今まで点在していた観光案内所、室戸ジオパークビジターセンター、ガイド受付などの機能や、室戸市観光ジオパーク推進課、室戸ジオパーク推進協議会、室戸市観光協会、室戸市観光ガイドの会など各団体の事務所を室戸世界ジオパークセンターに集約し、観光客の利便性を図るようにした。

## 7 取組の効果・費用

### 費用

室戸世界ジオパークセンターの整備費は、基本計画策定から建物改修工事、外構工事、展示物等の製作など、総額約568,596千円であり、そのうち342,367千円が空き家再生等の国や県の補助金でまかなわれている。

### 効果

室戸世界ジオパークセンターは、オープンがゴールデンウィークであったこともあり、オープンから7日で、入館者数1万人を突破した。また、年間想定入館者数は7万人であったが、オープン1年間の入館者数は、108,715人で、想定約1.5倍を超える結果となった。また、室戸市全体の観光入込客数も、前年比116%102千人増の735千人、観光消費額の推計は、前年比114%増の6,154,959千円（昨年ゴールデンウィーク期間中のアンケート調査により観光消費額単価を算出）となっており、本市経済への波及効果が認められている。今後においても、その役割が期待される。

## 8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

### 課題

昨年は、オープン初年度であったこともあり、地元の方をはじめ、多くの方々に来館いただいたが、今後の課題としては、何度でも来たくなるようなさらなる魅力アップが不可欠であり、新たな展示を増やしたり、季節ごとの企画展の開催などの工夫が必要である。

### 苦労した点（室戸世界ジオパークセンターの展示物に関して）

一般になじみの少ない「ジオパーク」という概念を、いかに理解してもらうか、どのような内容をどんな手段を使って伝えるのか、という点に試行錯誤した。

## 9 今後の予定・構想

平成28年度は、室戸ジオパーク推進協議会とともに、年間を通して、企画展の開催を予定しており、また、平成29年3月から高知県内で開催される「志国高知 幕末維新博」にあわせ、新たな展示物や資料映像などの展開を予定している。

その他、体験プログラム、ツアーの充実によるリピーターの確保など、さらなる魅力づくりに取り組み、室戸市全体の観光振興、地域経済の発展につなげていく。

## 10 他団体へのアドバイス

他団体にアドバイスできるような立場ではありませんが、新たな施設をオープンさせることは、時間もお金も労力もかかり、そのときの担当は大変な思いをすることでしょう。しかしながら、完成後来館者等から、「良かった」「ありがとう」と言ってもらったり、観光入込客数などが増加し、一定の効果が見えたときにはその苦労が報われると思います。自分のまちを発展させるために、官民一体となり、地域の実情にあった、よりよい方法をみんなで検討していただきたいと思います。